

## 令和5年度 石川県立盲学校 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 授業実践力の向上	主体的・対話的で深い学びの視点から教科指導の充実を図る。	全学部 教務課	教員間で授業を参観し合う機会が少なく、授業づくりのポイントや授業改善の視点について話し合うことが十分ではない。	【努力指標】 教員間で授業を参観し合い、授業改善の視点を持つことに取り組む。	自分の授業を2回以上参観してもらい、授業改善に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教員アンケートにより評価
2 専門性の向上とセンター的機能の充実	教職員一人一人が、視覚障害教育における自己の専門性の向上を目指し、校内での研修を受けるとともに、外部の研修に参加する。	全学部	県内唯一の視覚障害教育校として、またセンターとして、各教職員の専門性の向上・継承が重要な課題である。	【努力指標】 各自が視覚障害教育に関する校内研修のほか、外部研修への参加に取り組む。	年間をとおして、外部研修（オンライン等を含む）を2回以上受講した教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教員アンケートにより評価
	外部支援担当者会で、専門相談員派遣や教育相談のケースを事例として検討会をもち、相談担当者の専門性の向上及び相談・支援の充実を図る。	支援課	近年、視覚障害に加え、他の困難さがある児童生徒に対する相談依頼が増えており、相談担当者の専門性が求められている。	【成果指標】 事例検討会や自主研修会を実施し、多様なケースの検討を行うことにより相談・支援に関する専門性が向上する。	事例検討会を通して、専門性が向上したと回答した外部支援担当教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	外部支援担当者アンケートにより評価
3 キャリア教育の推進	学部集会や交流学習等(オンライン交流を含む)で、児童同士が話し合う場を設け、コミュニケーション力の育成に取り組む。	小学部	児童同士が交流する時間が少なく、会話の場が限られている。お互いの考えを伝え合う学びの場を設定する必要がある。	【努力目標】 他の児童と話し合う場を設定し、お互いの考えを伝え合う機会をつくる。	児童生徒が考えを伝え合う場面がある交流学習(オンライン交流を含む)を年間6回以上実施した児童の人数が A 3人 B 2人 C 1人 D 0人	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	実施した回数により評価
	生徒一人一人が持つコミュニケーションに関する課題を理療科全体で共有し、授業や学校生活を通してその課題改善に取り組む。	理療科	施術者として必要なコミュニケーション力を育成するために、学年ごとに目標を設定して取り組んでいるが、それらに加えて生徒に応じた個別の課題がある。	【満足度指標】一人一人の課題を掲げたチェックリストを用いて、生徒が自らの課題を改善できたと感じる。	生徒個々の目標に対して、生徒自身が授業等を通して課題を改善できたと感じる項目の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	生徒アンケートによる評価
	自分の将来像のイメージが持てるような、進路に関する授業を行っていく中で、働く力の育成を図る。	進路課 中学部 普通科	生徒の人数が少なく、障害の状態も多岐にわたるため、上級生の姿をモデルにして、卒業後の自分の姿を具体的にイメージできる生徒が少ない。	【満足度指標】 進路について、授業や進路行事を通して、生徒が将来像をイメージできたと感じる。	進路に関する授業や行事が自分の将来像を考える上で、参考になったと感じる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 進路に関する授業や行事を通して、生徒が自分の将来像をイメージできるようになったと感じる保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	生徒アンケートにより評価  保護者アンケートにより評価
	自らの生活上の課題に気づき、適切に目標を定め、必要な支援を受けながら解決を目指す課題解決能力の育成を目指す。	寄宿舎	課題解決能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組むために重要な力であり、生徒の発達に応じた力を身につける必要がある。決められた課題を解決するだけでなく、自らの課題に気づき、理解する力の育成が求められる。	【満足度指標】 生徒が、自らの課題に気づき、実践を通して解決する力が身についたと感じる。	自分の課題から目標を設定し、解決のために継続して取り組むことができたと感じた生徒の人数が A 4人 B 3人 C 2人 D 1人以下 課題解決にむけて目標を設定して取り組んだ結果、変容が見られたとする保護者の人数が A 3人 B 2人 C 1人 D 0人	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	生徒アンケートにより評価  保護者アンケートにより評価
4 校務分掌等の業務改善	各課が、マニュアルをもとに、業務の効率化や平準化を目指して業務を遂行する。	全学部	教職員の人数が少なく、各教職員は並行していくつもの業務を担っているが、異動等で担当者が変わった時に、十分な業務の引継ぎが行えない。マニュアルを活かし、業務の効率化や平準化を行う必要がある。	【成果指標】 各課のマニュアルやスケジュールをもとに、効率化や平準化を意識して業務を行う。	各課のマニュアルやスケジュールをもとに業務の効率化や平準化を意識して業務を行った教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は工夫・改善を図る。	教職員アンケートにより評価

